

甦えれ白き辛夷よ

(昭和三十六年寮歌)

小川徳人君 作歌
脇地炯君 作曲

一

甦えれ白き辛夷よ

吐息なす憂悶の日も

寂莫のまどろみも去り

オホーツクの水やわらぎて

流氷の群軋める国に

彷徨のい着きしを知る

朽葉ぬき頭もたげし若き息吹は

わが若き日の昏迷を掻く

二

濃霧を呑み大気は青む

輝ける太陽に酔い痴れて

高澄の日高の峠を

わだつみの青をば追わん

ああ慵げき虚を破りて

筋骨は火照に燃えぬ

エゾマツの深き樹林を渡る雄叫び

わが若き日の胸に響かん

三

眼路渺茫の野末遙けき

石礫の曠野に励む

先達の真情を凝らし

地の熟睡静かに温む

真紅をはきて入日たゆたい

颯々とポプラは鳴れる

友どちの組たる肩は若く息づく

わがあすの日の耕土を期して

四

白皚々と六華は咲けど

うす月は雲をどよませ

逆巻の吹雪は狂う

邂逅に結ぶ灯火

濃き鈍色ににじみそめつも

手をとって声を落さじ

明晰な眼を持ちて凝視る道に

わが霹靂の痕を印さん